



水 稻 管 理 情 報

播 種 編

**「5つの1か月対策」
育苗日数は1か月以内！**

令 和 2 年 3 月
J A 志 賀 会
能 登 南 部 営 農 推 進 協 議 会

浸種、催芽は、発芽を揃える上で重要な作業です。また、播種時期は、田植え時の葉齢に、播種量は田植え時の植付本数に影響を与えます。良い苗を作るために、適切に作業しましょう！

1 浸 種 (適正水温でしっかり吸水させましょう。)

◆浸種1日目の水温は、必ず10～15℃に保って下さい。

- ・種子の目覚めには、浸種直後（8～24時間）の水温が重要です。

【表1 浸種時の水温と発芽率の関係】

浸種時の水温（24時間）	その後の水温	発芽率
低水温（10℃以下）	10℃～15℃	×
適温（10℃～15℃）	10℃以下	△
適温（10℃～15℃）	10℃～15℃	○

低水温で浸種を開始すると、その後の水温が適温となっても発芽率が低下する場合があります。
※飼料用米は特に低温に弱いです。

◆発芽揃いを良くするため、低温での浸種(10℃以下)は行わないで下さい。

- ・良い苗を作るためには、発芽揃いを良くする必要があります。浸種時の水温を10℃～15℃に保ち、種子に均一に吸水させることが必要です。
- ・浸種は、直射日光や風が当たらない場所で実施して下さい。

◆酸素欠乏、発芽阻害物質を避けるため、浸種水量は種籾の2倍以上とし、2日に1回程度水を交換して下さい。

- ・浸種を開始すると、種子から発芽阻害物質が放出されます。酸素の供給、発芽阻害物質を取り除くために、2日に一回程度水を交換しましょう。
- ※薬剤吹付済種子は、最初の3日間は水を交換しないで下さい。

◆浸種の積算温度(水温×浸漬日数)は100℃以上

- ・積算温度が不足すると発芽が不揃いになる場合があります。(飼料用米の積算温度は80℃程度)
- ・浸種終了の目安は、籾殻の上から胚が白く透けて見えるようになった頃です。

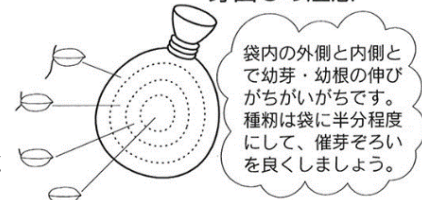
【表2 浸種日数の目安】

水 温	浸 種 日 数
10℃	10日
15℃	7日

2 催 芽 (発芽を揃える為、必ず実施しましょう。)

- ・催芽により発芽に最適な温度を与え、発芽を揃えましょう。
- ・芽は1mm以上伸ばさないようにしましょう。(表3)
- ・催芽揃いを良くするため、袋の中心部と外側で水温差を生じさせないように、種子を袋に詰めすぎないで下さい。

芽出しの注意



【表3 催芽程度と催芽日数】

水温	催芽程度	催芽日数	注 意 事 項
30℃	鳩胸～ 1mm未滿	1日～ 1日半	<ul style="list-style-type: none"> ・芽を伸ばしすぎると、芽が絡まり、は種ムラの原因となります。 ・芽が伸びすぎた場合は冷水に浸し、伸長を止めてください。

ハト胸



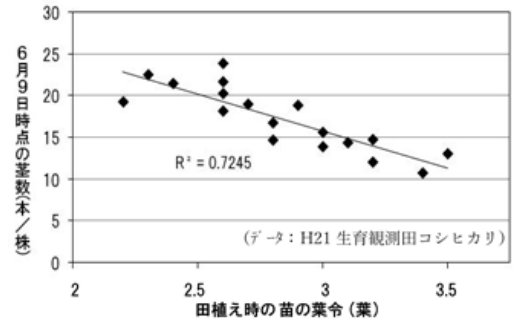
伸びすぎ



3 播種（田植えの予定に合わせて計画的に播種を行いましょ。）

◆播種日は田植え予定に合わせて設定し、健苗育成に努めましょ。

- ・育苗期間が1か月以内となるように播種時期を調整してください。（表4参考）
- ・育苗期間が長く、葉齢が進んだ苗は、分けつしにくく、優良茎を確保できなくなります。（図1）
- ・4月中旬以降の播種は、育苗期間が高温のためヤケ苗、徒長苗になりやすくなります。



【図1 田植え時の葉齢と分けつの発生の関係】

【表4 田植え予定日と適正な育苗日数の目安】

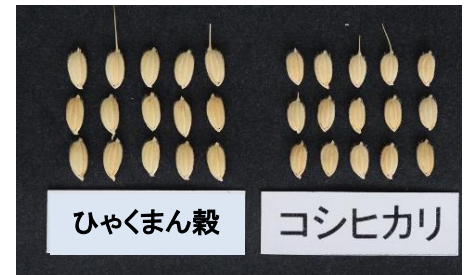
浸種	3月29日	4月4日	4月22日
催芽	4月8日	4月15日	5月1日
播種	4月9日	4月16日	5月2日
田植	5月5日	5月10日	5月20日
育苗期間	27日間	25日間	19日間

◆品種ごとの播種量の目安について

- ・大粒品種は、播種量が多くなりますので、播種機の設定に注意ましょ。（表5）
- ・高密度播種育苗技術（密苗など）は、専用の田植機又はアタッチメントが必要です。通常の田植機で厚播きの苗箱を使うと植付け本数が過剰となり、品質が低下ましょ。

【表5 品種毎の播種量】

品種	乾籾重 (g/箱)	催芽籾重 (g/箱)
ゆめみづほ	120	156
コシヒカリ	120	156
ひやくまん穀（大粒）	145	189
夢あおば（飼料用米・大粒）	145	189
ホシアオバ（飼料用米・大粒）	156	203



【図2 ひやくまん穀とコシヒカリの種籾比較】

◆床土量やかん水量は、使用する培土に合わせてましょ。

- ・JAで取扱う軽量型培土は、従来品と比べ床土量、覆土量、かん水量が異なります。
- ・苗立枯病を防ぐため、「ダコニール1000」を500～1,000倍液で箱当たり500ml 散水処理して下さい。

4 出芽（適正温度で病害回避ましょ。）

◆出芽器を用いた加温出芽では適温の30℃に設定ましょ。

- ・芽を伸ばし過ぎると、軟弱で病気に弱くなります。※芽に光をあてると伸長を止められる。
- ・32℃以上の高温になるとリゾプス菌などが繁殖し苗立枯病の原因となります。

【表6 加温出芽の目安】

出芽温度	出芽日数	芽の長さ
30℃	2～3日	8～10mm程度

◆無加温出芽（平置き出芽）では出芽揃いまで保温資材で被覆保護ましょ。

- ・保温資材で昼夜被覆し、高温日には30℃以下になるよう換気を行って下さい。
- ・およそ5日程度で出芽が終了ましょ。その後は慣行の緑化作業を行って下さい。